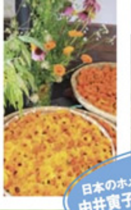

日本のホメオパシーの第一人者
由井寅子さんが実践する農業

洞爺農場は、洞爺湖を見下ろす日当たりの良い南斜面にある。ここでは、写真のカレンデュラのほか、ハーブを種類多く育てている。寅子さんが実践しているのは、農薬と化学肥料を使わない健康的な自然農。

健康な土壌で安心野菜を育てる

ホメオパシー自然農

ヨーロッパで長い歴史を持つ、ホメオパシー。
人間が本来持っている力に働きかけるこのセラピーを
いち早く日本に紹介した第一人者、由井寅子さんは、
現在、無農薬、無化学肥料で静岡函南と北海道洞爺で、
野菜やハーブを育む農業を営んでいます。
農薬を使わない健康な土壌から生まれる
自然の恵みは、はかり知れません。

取材協力・写真提供◎日本豊受自然農、カレッジ・オブ・ホリスティック・ホメオパシー　構成◎編集部

海外で出されたお茶に感動 日本で自然農法の実現を決意

私は一時期、イギリスに住んでいました。その頃、フランスのお城に住む友人を訪ねたことがありました。

私が到着すると彼女は、広大な庭から両手一杯に花とハーブを摘んできて、その花を無造作にドサッと花瓶に入れました。すると、部屋中に新鮮な花々の香りがぱぁーっと広がりました。

摘んできたハーブは洗いもせず、虫がいてもお構いなしに、そのままお湯を入れてハーブティーにしてくれました。香りも色もとてもきれいなそのお茶は、本当においしくて、「これこそ本物のお茶だ」と思いました。農薬や化学肥料を使わない、自然の気がいっぱい詰まったハーブティーに、私の目も鼻も舌も心も喜んだのです。

20年前に、ドイツにあるホメオパシービレッジを見学しました。そこでは、みんな一緒に村に住み、自然農でレメディーの原料を栽培して働いていました。それを見て、「日本に帰ったらいつか絶対にこれをやろう」と決めたんです。

植物活性醗酵液を使って バランスの良い健康な土作り

私たち「日本豊受自然農」が、農業に取り組んで、早8年目となります。最初は群馬で、5年前に洞爺に引っ越し、10反の畑でハーブをメインに作っています。4年前には、静岡函南に25反の農地を新しく手に入れ、野菜をメインに作っています。私たちが実践するのは、土壌菌を大事にするホメオパシー自然農です。植物の発するメッセージに耳を傾け、植物に語りかけ、植物や大地をいじめないことを基本としています。

ですから、農薬と化学肥料を使わず、レメディーと植物活性醗酵液（アクティブプラント）で土作りを行っています。植物活性醗酵液を使うと、土の微生物バランスが整います。同時に、堆肥化が短縮されるので、落ち葉や茅を堆肥化して、循環型の農業を実践できるんです。

函南の農地は、かつて田畑だったので、土地改良をしても痩せていて、当初カレンデュラ（キンセンカ）は、花は咲かせても茎も葉も寸詰まりで、あまり伸びませんでした。そこで、クヌギやドングリの葉を植物活性醗酵液で堆肥化したものを撒いたところ、約3週間後には、茎がしっかり伸びて花つきも良くなり、満開になったのです。茅は、畑に敷き詰めることで雑草の生育を抑え、醗酵させると素晴らしい栄養源となります。

農業は、何よりも健康な土作りが基本です。ここでは、雑草も土壌菌もミネラルバランスや栄養バランスを整えるために必要なものが増殖しているんです。元気な成長を願うなら、植物の種類に合う、土壌菌を増やすことがコツになります。

つまり健康になるために人間が腸の善玉菌を増やすことと同じです。逆に悪玉菌が増えるのは、抗生物質を与えられたからです。これは植物に農薬を撒いたり、化学肥料を与えて、土壌を殺してしまうこととまったく同じ現象なんです。

右は、富士山を見上げる函南農場。野菜を多く作っている。洞爺と函南それぞれの農場で収穫ツアーがあり、ハーブや野菜の旬の時期に行っている。下の写真は豊受自然農園の野菜たち。

カレンデュラの成長の変化

土壌に発酵植物活性液とレメディーを使用した後は、ぐんぐん成長を始めたカレンデュラ。

2011.4.8
植物活性醗酵液を使った落ち葉堆肥をまわりに撒いて開花

2011.5.6
茎が伸び、
花つきも良くなる

2011.5.21
葉も茂って満開に

スピリットの力を強化する レメディーで植物の力を活発化

カレンデュラの茎が伸びずに開花したのは、特に土壌の栄養である窒素とカリウムが不足したことが一番の原因です。また、根は窒素がないと充分に根粒菌を作ることができず、ミネラルを吸い上げる力が弱くなります。

ホメオパシー自然農では、レメディーも使います。レメディーは、原物質を希釈したものなので、スピリットの情報しか含まれていません。でも、例えば土が窒素不足で植物の生育が悪ければ、窒素のレメディー「Nitrogen 30c」を植物に与えて、窒素の吸収力を高めたり、生育の改善が期待できます。また、レメディーの情報が入ることで、「植物は土壌からミネラルなどの栄養吸収を高められる可能性がある」とも考えられます。化学肥料に頼らなくても、レメディーが土の栄養不足を補ってくれるようです。それでも改善しない時は、植物活性醗酵液で醗酵させた堆肥を使う必要があります。

この堆肥に素晴らしい力があるのは、植物活性醗酵液とレメディーとカブトムシとミミズのおかげです。土には化学肥料を撒かなかったので、多くの有益な虫たちがきてくれました。こうして、自然と共存した農場ができたんです。

根性と忍耐と試行錯誤の末に おいしく安全な野菜を収穫

当初、カレンデュラをきちんと成長させるまでに、3年ほど試行錯誤しました。

また、炎天下の草取りは大変でした。ある時、しそジュースにする赤じそ畑の1反すべてが雑草に飲み込まれ、太陽の光を受け取れなくなり、成長が止まりそうになりました。そこで、6名くらいで1本1本草を抜いてまわりました。そして4日後、見事に雑草に勝ちました。

こういうことを農家の方は見ていてくださったようで、「素人集団だと思っていたけど、根性だけは人一倍だね」と言われました。そうやって忍耐をもって農業を続けた結果、地元の組合から農業従事者の資格をいただきました。この資格が取得できるまでには、「石の上にも3年」ではなく、8年かかりましたね。

その後、「日本豊受自然農」という農業生産法人も設立しました。野菜が一番元気な早朝に収穫し、札幌から福岡までの全国11店舗に出荷しています。

お客様からは「とにかくおいしい！」「自然農の野菜を食べているけれどここの豊受自然農の野菜は一味違う」「野菜の本来の味を感じる」「生が一番おいしい」など、うれしい言葉をいただいています。

私たちは、この農園をホメオパシーエコビレッジにしていきたいと思っています。家を建ててみんなで住み、ホメオパシーの幼稚園・小学校・中学校も予定しています。予防接種をしなくてもいじめられません。そして、野菜班、コメ班、ハーブ班という具合に、子供も女性もみんなが分担して仕事をするんです。自給自足の生活とはそういうものです。そこで作られる食べ物は、クッキーでも何でも人工的なものを入れません。

そういう生活が実現したら最高です。昔の人には当たり前のこと。今の私たちに、できないはずはありませんよね。

とらこさんの農業豆知識

土壌のミネラルバランスを崩す化学肥料

- 化学肥料は、使い始めの際、一時的に収穫量が増しますが、土が力を失うため、植物の生命力が弱まります。そのため農薬や除草剤が必要になり、その後は除草剤に耐性のある作物や遺伝子組み換え種しか栽培できなくなります。
- 日本で使われている化学肥料は、「硝酸塩」「リン酸塩」「カリウム塩」「カルシウム塩」が主体のため、植物の根の発育に必要なマンガン、鉄、亜鉛、銅が不足し、作物は土壌からミネラルを吸収できなくなります。その結果、現在の作物は、カルシウム、鉄、亜鉛、銅、マグネシウムが不足しています。
- 化学肥料や農薬を使う以上、土はミネラル不足になります。土壌環境を整えるには、農薬を撒かずに、ミミズ、カブトムシ、蛹、根粒菌などが住めるよう改善する必要があります。多種多様な微生物や昆虫のいる環境の土を作れば、その中でミネラルバランスも保てるようになるのです。

日本農業・環境シンポジウムが開催されます
日本農業・環境シンポジウムin京都　3月20日（火・祝）
京都リサーチパーク　サイエンスホール（京都市下京区）
お問い合わせ／日本豊受自然農まで
TEL 055-970-2202　Email：nippon@toyouke.com
協賛　日本ホメオパシー医学協会